

令和3年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和4年2月14日
函館市立北星小学校

1 本年度の重点教育目標

「凡事徹底」～当たり前前の方が当たり前前のできる子どもの育成～

2 本年度の取組の重点

- 1 確かな学力の育成（北星小学習スタンダードの徹底、日常の授業の質の向上、子どもの学びを支える体制や環境整備）
- 2 豊かな人間性と健やかな体の育成（体力向上に向けた取組の推進、北星小生活スタンダードの徹底、道徳・人権情報モラル教育の充実）
- 3 期待と信頼に応える学校づくり（共通理解・共通実践による組織的対応、働き方改革の推進、地域とともにある学校づくり、巴中校区の連携の充実）

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
① 個性豊かなに生きる子ども	児童一人一人に基礎基本を確実に身に付ける指導に努めている。	a	全国学力・学習状況調査の結果がこの10年間で一番よい結果となるなど確実に子どもたちの学力が向上している。個に応じた指導を継続する。	A	A	・学力が向上した要因を分析し、今後も継続してほしい。
	児童一人一人の学ぶ意欲を高める指導の工夫に努めている。	a	一人一台端末を有効に活用して漢字・計算等の学習ドリルを徹底している。子どもたちに応じた個別最適な学びを提供することができたので継続する。	A	B	・今後もさらに情報活用能力の育成が必要である。 ・家庭学習で何を学習するかを見通しをもてない児童に対して具体的な方策をおこなってほしい。
② 優しさをもって生きる子ども	豊かな心を育む道徳教育の充実に努めている。	a	校内において教師全員が道徳の研究授業を実施して授業力を高めることができた。また、巴中の教師による乗り入れ授業も複数回実施することができた。来年度も巴中と連携する。	A	A	・相手の立場になって行動できる児童を育成してほしい。
	いじめ、不登校や様々な問題行動に適切に対応するように努めている。	a	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携した組織的な対応が機能していた。今後も未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。	A	B	・保護者と連携した取り組みが重要になる。
③ たくましく生きる子ども	健康教育の充実に努めている。	c	全国体力テストの結果からも全体的に体力向上については数値が低下している。また、ゲーム・スマホ依存の子どもたちが多くなっている。体力向上の取組と保護者への啓発を工夫改善する。	B	C	・体力向上の本質を捉えさせて児童に取り組みさせることが必要である。 ・スマホの使い方を家庭と連携して取り組む必要がある。 ・学校だより等で保護者や児童にゲームの約束などの話題を提供してほしい。
	安全教育の充実に努めている。	a	警察・消防等と連携した学びの機会を実施することができた。特に警察とは、不審者対策等、密接な関係を構築することができた。危機管理についてさらに見直しをする。	B	B	・地域住民との連携をさらに強化してほしい。
④ 学校における指導体制の等の充実	教育目標の実現に向けて教職員が組織的に教育活動に取り組む。	a	校内のサポート委員会等の特別チームが機能して組織的な取組を行うことができた。今後も情報共有・共通指導に努力する。	A	A	・防災教育やキャリア教育等で地域人材を積極的に活用してほしい。
	業務改善に向けた取組を進め、教職員の働き方改革に取り組む。	a	コロナ禍の中でもPTAと連携して「何ができるか」を常に考えた教育活動を実現することができた。子どもと向き合う時間を確保する。	A	B	・教員のパソコン等のスキル向上が必要である。
⑤ 家庭・地域・学校と連携した教育活動の充実	コミュニティ・スクールの取組を行い、家庭・地域と一体となった学校運営を推進する。	b	学校や地域の抱える問題について、管理職だけでなく教職員も学校運営協議会に出席し情報を共有することができた。保護者・地域の人材を生かした取組を進める。	B	B	・評議員をもっと活用してほしい。 ・地域に軽スポーツ等のインストラクターがいます。活用してほしい。（ゲーム依存の解決にもなります）
	家庭・地域・学校が目指す子ども像や教育目標、学校運営の基本方針を共有することができたか。	a	毎月PTA三役会を開催した。保護者や子どもの様子を交流し、課題については保護者の協力を依頼し改善することができた。今後も継続する。	A	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。